

大分県における次世代モビリティサービスの 現状と課題について

令和3年9月2日
検討会事務局

目次

- 1 これまでの取り組み
- 2 実績まとめ
- 3 今年度の取り組み(案)
- 4 今後の日程について

1. これまでの取り組み

- 検討会を立ち上げ、各分野の代表と県内の移動課題について意見交換
- 課題解決に向けた実証実験を実施

デマンドバス配車の効率化 ワンボタンでのタクシー配車



- 利用者 21%増
- 誰でも配車計画
- 運転に集中できた
- 運行実績データ化



- 利用者 対前月 7倍
- 手軽にタクシーを呼べる
- 駆けつけてくれる安心感
- 潜在需要の掘り起こし

通所送迎の効率化



- 送迎計画を自動作成
- 送迎業務の短縮
- 急な変更にも対応
- 利用者に着時間の通知

バス事業者のデジタル化支援



- 1,500人の友だち登録
- 独自アプリ不要
- デジタルチケット化促進
- 社員のDX化意識醸成

1. これまでの取り組み

- 初年度(令和元年度)の取りまとめにおいて、3つの目指すべき方向性を設定

目指すべき方向性

① 持続的な次世代モビリティサービス

…関係者が互いにメリットを享受できる（利用者、交通事業者・サービス提供者、行政等）

② 実証を通じた実例の提供

…サービスの導入を促す、移動データの取得・活用につなげる

③ 新たな価値の創出

…移動課題の解決に留まらない
移動に付加価値を与え、地域活性化等につなげる

2. 実績まとめ

✓ 実証の成果（可能性）

- **利用者の利便性を向上**させる事が、**移動需要の喚起に繋がる**可能性が見えた
- その結果、交通事業者の**収入確保**にも繋がる

✓ 今後の取り組み（サービス実装に向けて）

- **利用者ニーズを深掘りし、適切なサービスレベル**を見極める
- **利用者の価格受容性**を分析し、事業者の**事業性・収益性**を追求する

● 実装に向けて、サービスの維持が課題

3. 今年度の取り組み（案①）

- サービスの維持について、昨年の実証実験テーマを深掘り

ワンボタンでのタクシー配車



手軽に呼べる

見守り
安心

無料

=

利用者増



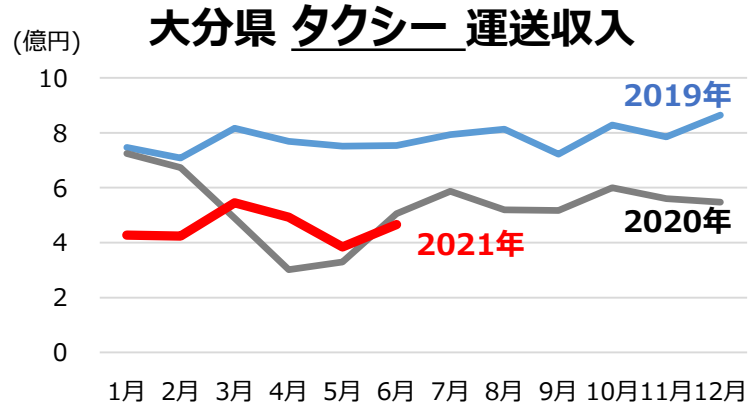
サービス実装に向けて、**有償**での実証実験を行いたい。

・検証したい項目

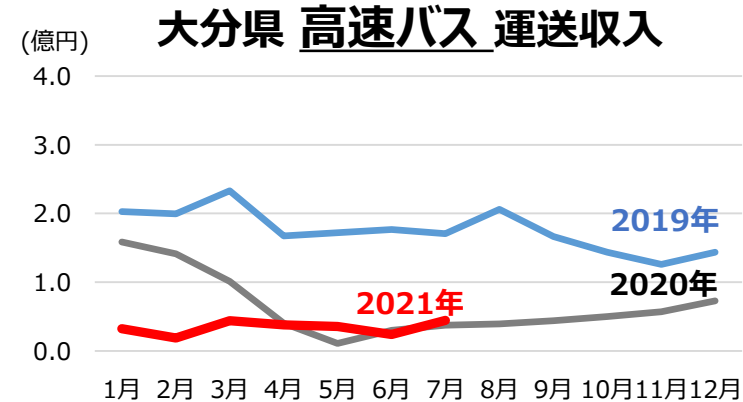
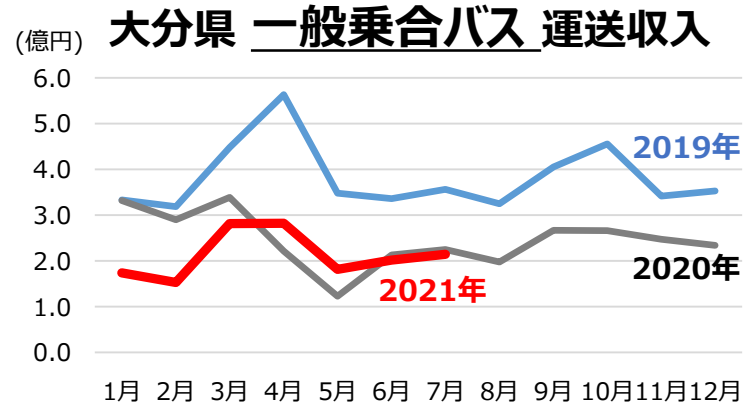
- ① 利用者の求めるサービスレベルの深掘り
- ② 利用者の価格受容性
(いくらまで、どんな仕組みなら利用するか)

3. 今年度の取り組み（案②）

● ウィズコロナ/アフターコロナ時代に対応した移動手段の検討



(県タクシー協会、県バス協会調べ)



ワクチン接種率

■ 全国

- ・接種1回目 56.2%
- ・接種2回目 45.1%

(首相官邸HPより8/31公表)

- ・交通事業者を取り巻く環境は、依然として厳しい。
- ・希望者へのワクチン接種完了目標「10月から11月までの早い時期」

3. 今年度の取り組み（案②）

● ウィズコロナ/アフターコロナ時代に対応した移動手段の検討

○国際航空運輸協会（IATA）（2021年5月26日）

- ・2023年 世界の航空機搭乗者数が、新型コロナウイルス感染症の流行が始まる前の2019年を超え、105%に上るとの見解を発表

○世界観光機関UNWTOの発表（2021年5月31日）

- ・2022年 世界の観光需要が再び戻ってくる（専門家委員60%が予測）
- ・2024年以降 コロナ前の観光市場と同水準まで回復する（専門家委員49%が予測）

○経済財政運営と改革の基本方針（2021年6月18日）

【経済好循環の加速・拡大】

世界経済が回復していく中で、国際経済連携を強化しつつ、中小企業の輸出や農林水産物の振興、インバウンドの再生、航空・空港・海事関連といった国際交通を支える企業の経営基盤強化等を通じて、外需を日本の成長に取り込んでいく。

● 観光分野の反転攻勢をかける

→二次交通の整備、渋滞対策、コンテンツとしての移動手段の検討

● 移動手段の充実による移動活性化の検討

→ウィズコロナ時代に対応したパーソナル移動手段、ラストワンマイルの充実

4. 今後の日程について

検討会の日程

- ① 9月 今年度の取組方向性の合意
- ② 12月 実証中間報告
- ③ 3月 実証まとめ、翌年度の取組について

以上